

## 令和6年度レブンアツモリソウ保護増殖検討会 議事概要

### 1. 概要

- (1) 日 時：検討会（公開） 令和7年3月11日（火）10:00～12:00
- (2) 場 所：オンライン
- (3) 出席者：
  - 検討委員  
河原孝行座長、幸田泰則委員、八巻一成委員、志村華子委員、綱本良啓委員
  - 関係機関  
北海道森林管理局計画保全部計画課  
北海道森林管理局宗谷森林管理署  
礼文町役場産業課
  - オブザーバー  
北海道環境生活部自然環境局自然環境課  
礼文しぜん調査
  - 事務局  
北海道地方環境事務所  
株式会社さっぽろ自然調査館

### 2. 議事概要

河原委員が座長に選出され、河原座長の議事進行のもと、議事1として「各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について」、議事2として「レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップの評価について」、議事3として「レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップの改定について」、議事4として「その他」について議論が行われた。

委員からの主な意見、質疑等は、次のとおり。

#### 議事1. 各機関からの取組み報告及び次年度の取組み予定について

##### ◆資料1-1～1-4

- (委員) 礼文町からの報告で、鉄府保護区ではレブンアツモリソウが減少しているとのことであった。鉄府における観光客の動きとしては、保護区の下の方に集中しているのか。大備海岸は大型バスが入れる状況になるのか  
→群生地は木道の方のみ開放していて、旧散策路は非公開となっている。  
少し離れるが、群生地向かい側を見てもらうようにしている。大備については駐車場は今年度整備したが、乗用車のみの利用を想定しており、大型バスは停められない。(礼文町)

(委員) 大備海岸は防潮堤があるが、どうするのか。歩く道もないのではないか。  
→昨年秋に防潮堤の一部を切り崩して階段を設置し海岸に下りられるようにした。レブンアツモリソウの分布状況を見ながら散策路もつけている。踏み付けが発生しないよう、ロープ柵を付ける予定である。(礼文町)

(委員) 刈払いが成功しているということだが、リターの除去は生態的に問題ないか。刈り取ったものは根元に置いた方が無難ではないか。  
→リターの除去の影響についてはまだ検証はできていない。今後知見を活かしていきたい。(環境省)  
→リターがあると実生の発生を抑制するというヨーロッパでの研究がある。どういう状況がベストかは答えられないが、養分がありすぎても病気の関係などでよくないことも考えられる。(委員)

(委員) 普及啓発の記述で去年のリーフレットについては書かれていなかったが、配布した反応などはあったか。  
→5月に完成し、6月に地域住民に全戸配布し、観光客にも配布している。(環境省)  
→皆さんに目を通してもらい、改めてレブンアツモリソウへの興味を持ってもらえたと思う。(礼文町)  
→多くの人に現状を知ってもらい、レブンアツモリソウ保全の応援団になってもらうために、持続的な啓発は重要と思う。(委員)

(委員) それぞれモニタリングの報告があったが、おおまかな傾向の説明が欲しい。幼植物が増えたといったことはあるか。  
→鉄府保護区では葉が2枚、3枚の小型のものが増え、4枚の個体が減少している。船泊保護区は、固定区を移設して状況を見ているところである。カウント結果は場所によって傾向がさまざまである。  
→鉄府群生地の固定区のモニタリング結果は、歩道沿いも含めて減少傾向といえる。(林野庁)  
→町の管轄地では年変動はあるが、全体的には現状維持とあってよい。駐車場横は一気に増えたが、おそらくいまがピークにあると思われる。(礼文町)

(委員) 今後の取組についての意見は特にないということであり、令和7年度はこ

の方針で進めてもらいたい。

## 議事2. レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップの評価について

### ◆資料2

(委員) 「世代交代は十分に見いだされていない」と書いてあるが、すでに個体数が増えているというのであればあえて書く必要はないのでは。

→「世代交代は十分に見いだされていない」というのは、刈払いの後に出土した開花株からの実生のことではないという意味か。(委員)

→これは実生による更新ではないということなのではないか。(委員)

→新しいところで増えているのだから、実生から世代交代をしているのではないか。もっとポジティブに評価してもよいと思っている。(委員)

→刈払いから7～8年経って、実生が出てきているようなら、世代交代をしているといえる。(委員)

→遺伝的な多様性の維持を考慮し、有性繁殖による世代交代が重要と思っている。大備や礼文空港は数が増えているが、更新環境の提供ということまで考えると十分な状況であるとは言えないのではないか。(委員)

→刈払いからの年数を考えると、まだ世代交代を見られていないということではないか。(委員)

→事務局で整理するということでよいか。(委員)

→世代交代については今後確認が必要であるということで、記述できればと思う。(環境省)

(委員) 資料の2ページに、「依然として個体数が減少傾向」とあるが、その要因について共通認識の所見があるのか。

→「高茎草本、ササ等の繁茂により」と書かれている。遷移により減少しているという理解でよい。(委員)

→「現状」部分の「減少傾向」は、ロードマップ作成時の記述となる。(環境省)

(委員) 野生復帰について「定着に影響する要因の解析などはできておらず」とあるが、この要因は分からないので書いても仕方ない。ポジティブな表現と混ざっているのも、理解を妨げる。

→メカニズム的には難しいかもしれないが、どのような場所が野生復帰に適しているのかを明らかにしていくという意図だった。(環境省)

→私が慎重なコメントをしたと思うが、これまではあまりいろいろな場所に植え戻しをした経験がないので、適地の選定に向けて、というような

ことを書いておくとよいと思う。文言は事務局で調整する。(委員)

(委員)刈払った後にレブンアツモリソウが多く出る時と出ないときがある。その原因をつかむ必要があるということの記述はあってもよい。記述する場所は、3(1)でよい。

→今までも難しかったところではある。以前の履歴が分からないことも多い。(委員)

→難しいのは確かだが、刈払いの見込みが分かればと思う。(委員)

→「要因の解析は必要である」というところに入れられれば。(環境省)

(委員)過去の人為的な攪乱の影響についても考える必要があるという議論は以前にもあった。

→次期ロードマップの検討でも、議論を続けていきたい。(環境省)

(委員)変更が必要な2箇所の文案は、事務局で再検討して委員に諮ることとしたい。

### 議事3. レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップ改定について

#### ◆資料3-1～3-2

(委員)保全度合いを数値化して評価するという案だが、数値を出すことだけに終わっては不十分といえる。自然は想定外のことも起きるので、無理のない表現がよい。

→「保全度合い」という表現は、皆さんの心情としてはよいと思う。(委員)

→数値目標とあるが、文章も含めて総合的な評価をするという理解でよいか。数字だけでは掬いきれない部分があるのではないか。(委員)

→そのような理解でよい。(環境省)

→海外でそのような評価を行っている事例はあるか。(委員)

→自然科学系に関しては把握していないが、社会科学の分野では数値による評価だけではこぼれてしまう部分が大きくなりがちと考えられている。(委員)

→一つの数値だけで評価するのは厳しい。いくつかの数値を組み合わせ、多角形チャートのような形で評価するのがよいのではないか。(委員)

→管理計画の中で、温暖化への影響にも配慮しておく必要があるだろう。絶滅リスクを低下させるためには生育地を分散するのがよい。また、礼文島内でササの一斉枯死が起きているので、それを利用して分布を広げ

られるとよい。(委員)

→温暖化では、乾燥化に適応しやすい種が増えるなど、間接的な影響もありうる。考え方の整理が必要だろう。(環境省)

→温暖化への対応ということで、東京や札幌で育成して高温耐性を持つものを選抜していくこともあるのでは。(委員)

→どこまで手をかけるかは議論が必要と思う。域外保全も重要であるが、そのあり方についても様々な議論が必要である。(環境省)

→育種的な対応もありうるが、自然状態での保全と両輪で考える必要がある。(委員)

→種そのものだけでなくレブンアツモリソウの生育環境、植生の保全についても記述するのがよい。(委員)

→生態系の保全が重要であるという指摘は重要である。(委員)

#### 議事4. その他

特に発言はなし。